

カットネギの養分吸収特性および効率的施肥技術

宗石佳奈・糸川修司

Nutrient-uptake characteristics and efficient fertilization of an *Allium fistulosum* variety

Kana MUNEISHI, Shuuji ITOKAWA

要約

1作で年間3回程度の刈り取りを行う加工用のカットネギについて養分吸収特性を調査するとともに、それに基づく施肥方法を検討し、以下の結果を得た。

1. 養分吸収は苗の活着期間にはほとんど行われず、春植えでは定植2週間経過後、冬植えでは定植2か月経過後から増加し、1回目収穫後は両作型とも速やかに増加した。
2. 生育初期の養分吸収量は少ないに関わらず、定植後の無機態N量は大幅に低下し、雨によって流亡している可能性が示唆された。
3. 数回の刈り取りを行ってもN吸収量はほとんど衰えなかった。持ち出し量が多いため、持続したN供給が必要と考えられた。
4. 生育初期は養分吸収量が少なく、基肥減肥の可能性が示唆された。一方、定植時の無機態N量が極端に少ない場合、減収する可能性が示唆された。
5. 基肥減肥と堆肥施用を組み合わせると、慣行とほぼ同等の生育・収量・養分吸収が確保され、pH低下や塩基類の減少などの地力低下が抑制された。

キーワード：葉ネギ カットネギ 養分吸収特性 家畜糞堆肥